



沖縄交通リ・デザイン



沖 縄県の交通事情は課題が山積み、特に深刻な交通渋滞によって1年間に県民1人あたり55時間、県全体で年間1455億円の経済的損失があるという試算が発表されました。

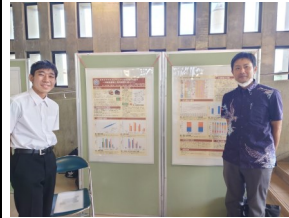
これら課題解決に向けて、県民の意見を広く掘り起こすことを目的としたパブリックインボルブメントの一環として、首里高校1年生と内閣府沖縄総合事務局との意見交換会が11月15日(水)に行われました。意見交換会では沖縄総合事務局の担当者より概要の説明があったあと、2グループに分かれて活発な意見交換が行われました。

また11月23日(木)から26日(日)の期間、那覇空港とサンエー那覇メインプレイスで、1年生が探究活動で作成した「交通」問題発表資料のパネル展示も行われました。

探究の本質につながる素晴らしい活動だと思います。担当の新垣先生、大変お疲れ様でした。



首里高生物部が快挙！



生物部は、これまでもオキナワウスカワマイマイの生態を研究してきましたが、今回は沖縄本島と周辺離島の25地点で採取した約1300個体の標本を調べ、地域や色の特性で大きさが異なることを突き止めたものです。2年生の宮城英輝部長(西原中)始め、部員の皆さん、顧問の儀間先生、素晴らしい成果、本当におめでとうございます！

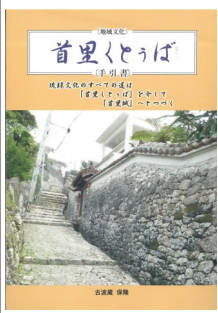
生 物部が行ってきた研究「オキナワウスカワマイマイの形態の研究」が、10月15日(日)に行われた第63回沖縄県立生徒科学賞作品展(県高総文祭自然科学部門)で最優秀賞と読売新聞社賞を受賞、来年開催の「清流の国ぎふ総文2024」へ沖縄県代表として出場することになりました。また11月7日(火)に行われた第70回高校生による生物科学展でも最優秀賞を受賞、九州大会派遣となりました。

「首里くとうば手引書」寄贈

古波蔵先生は元は小学校の校長先生だったということで、新聞投稿をまとめた『校長室からメッセージ』も一緒に寄贈していただきました。図書館に来館した際はぜひ手に取りがたいと思います。古波蔵先生、ありがとうございました。



本 校十三期生で金城町にお住まいの古波蔵保隆先生から10月31日(火)に『首里くとうば手引書』の寄贈がありました。本書は先生がうちなぐち継承の一助になればと、生まれ育った首里の言葉をまとめて出版したものです。新聞でも紹介され、多くの反響がありました。ぜひ母校である首里高校の生徒の皆さんに活用して欲しいということで、今回寄贈していただきました。



首里高祭収益寄付



第 42回首里高祭で、染織デザイン科1年生の体験「首里工房」と3年生のバザーで得た収益の寄付が行われました。

1年生は11月22日(水)に沖縄美ら島財団へ、日頃、伝統工芸を学ぶにあたって、文化の象徴である首里城の復興と被災した工芸品の修復に支援したいとの気持ちを込めて、入里雅さん(松城中)、田場明未華さん(港川中)、渡嘉敷結菜さん(糸満中)が代表として贈りました。

また3年生は、11月1日(水)に、幼少時にお世話になったこども医療センターに、少しでも恩返しをしたいということで、照屋そらさん(仲井真中)と福元紅さん(大里中)が代表として寄附を行いました。

首里高祭での素晴らしい取り組みの収益を社会に還元しようという染織デザイン科の皆さんの気持ちを心から嬉しく誇りに思います。

